ちいさな絵本館だより

2017 年 6・7 月

73 号

雨の季節はもう間近・・・

梅雨は、もうすぐやってきそうです。。降らないと困るし、降りすぎるのもねえ～って思う季節ですね。雨降りが続いて外で遊べないときは絵本で楽しんでくださいね。今月の絵本館だよりは【水】の絵本を集めてみました。

『おさんぽ　おさんぽ』広野多珂子：作　福音館書店

青い長靴が印象的な作品です。雨上がりは普段と違う生き物と出会えるチャンス。雨が上がっただけで楽しいけれど、いつもと違うことを体験できるのは、もっと楽しい！そして、水たまりを見つけたら、やっぱりジャブジャブしたくなりますね。

『あかいかさ』ロバート・ブライト：作　清水真砂子：訳　ほるぷ出版

今度は赤！雨の季節は町も彩が少なくなるからか、明るい色が主役になるのでしょうね。小さな絵本ですが、この作品の赤い傘はとても大きくなるようですよ。どこまで、大きくなるのかしら？

『みずたまのたび』アンヌ・クロザ：作　こだましおり：訳　西村書店

傘に降りかかる雨の一粒一粒は、どこからやってくるのでしょう？子どもたちに聞かれたら、すぐに答えられるかと言えば、私は少し自信がありません。そんな疑問にも絵本がとても簡潔にシンプルに伝えてくれることがあります。この作品もそんな１冊です。

『いけのおと』松岡達英：作　福音館書店

雨の水が集まって池になりました。池のそばに立つといろいろな音が耳に入ってきます、虫の羽音やカエルの鳴き声も聞こえますが、なんと言っても水音の響きがいろいろな音を聞かせてくれます。

『川はながれる』アン・ランド：文　ロジャンコフスキー：絵　掛川恭子：訳　岩波書店

雪解けの水から小さい川が生まれました。細い川の流れは、どこへ行けばよいのかわかりません。どうしたものかと迷っていると、動物たちが色々な助言をしてくれます。そこで、まず湖を探しに流れていきます。しかし、湖は川に言います。川は海に流れていくものだと・・・。そこで、川はまた、旅を始めますよ。そして、小さな川は大きな成長を遂げるのです。